

■児童・生徒の学力の状況

「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果では、国語科の本校の平均正答率は都の平均正答率より3ポイント高く、数学科の本校の平均正答率は都の平均正答率より6ポイント高かった。「思考・判断」したことを短答・記述で「表現」する問題の正答率が低く、自分で考えたことを適切に表現する力に課題が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○分からないことや詳しく知りたいことがあるときに自分で学び方を考え、工夫する指導が適切に確保できていない。
○自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づくための学習活動をさらに充実させる必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダード」に基づき、教科書の活用による基礎的事項の定着をさせることと学んだことをOUTPUTできる表現力が向上する授業を行う。
○INPUT→THINK→OUTPUTの授業の流れを通して、読み解く力を育成する。
○「板橋区授業スタンダードS」の要素を取り入れ、生徒が自己調整学習をする授業（単元）を単元内ごとに行う。
○ICT機器を有効活用した主体的・対話的で深い学びを実践する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	総合的な学習の時間との連携
全教科で「めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・ふりかえり」の流れに沿った授業を展開し、単元のねらいや生徒の実態に応じた「自己」選択・決定・調整の学習を取り入れる。	ICT支援員との連携のもと、個々の生徒を見取りながら、授業内外での「個別最適な学び」の機会を保障したり、「誰一人生徒を取り残さない」教育活動を継続・推進する。	テーマに関する調べ学習や行事の事前・事後学習で終わらせることなく、探究学習の時間に昇華させ、生徒の課題設定能力と課題解決能力の向上をめざす。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
中学校教員がエリア6年生の児童に入学前体験授業を行い、話し合い活動や体験学習を推進してエリア内小学校を超えた学習交流を行い、小中一貫教育の充実を図る。学びの連続性を意識した小中一貫教育を推進する。エリア独自の「小学校のまとめテスト」を実施し、小学校段階でのつまずきの解消、中学校での指導をさらに充実させる足がかりとする。	「福祉教育」の視点から、「特別の教科 道徳」の時間を要とする道徳教育、各教科や体育的・文化的行事と連携した人権教育、宿泊行事や校外学習、笑顔と学びの体験活動プロジェクト等と連携した体験活動を通して、自他の生命や個性を尊重するとともに、いじめや差別、偏見の防止を含む人権感覚を養い、規範を守る社会の一員としての自覚を高め、社会づくりに参画しようとする態度を育てる。	非常時や天災時に登校できない状況や不登校生徒が教室外でも学習ができるように、配信による遠隔授業を推進し、生徒の多様な実態に配慮できるよう取り組む。特別支援専門員による授業観察を適宜行い、教員との情報を密に共有することによって生徒個々に応じた能力の伸長を図る。